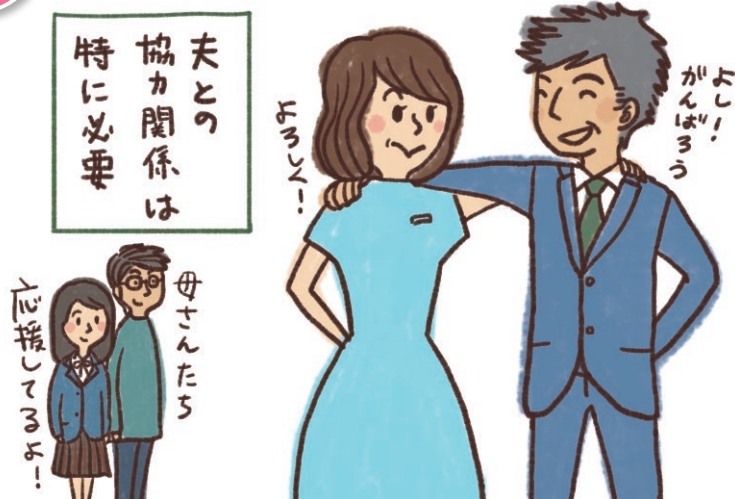




働きたい。でも、子どもの預け先が無い、夫や家族の協力が得られない、ブランクがあり復帰が不安……。このような理由でなかなか復職に踏み切れない方々がいらっしゃるのではと思います。

保育園不足は切実な問題です。行政だけではなく地元住民の理解が得られなければ、解消できる問題ではありません。復職して共働きとなると家族の理解が必要です。特に夫との協力関係が絶対的に必要になってきます。

今回は、私が復職を考えていた頃の経験やその当時の環境をご紹介します。私は20歳で結婚しました。当時は寿退職が当たり前で、結婚したら女性は家庭に入って夫や家族の世話をするものとされていました。そんな時代でも

女性の社会進出の兆候があり、大企業では結婚しても女性が仕事を続けられるよう、環境が整い始めていました。

歯科の世界では結婚したら辞める方が多くいましたが、私が最初に勤めた先の院長先生は、柔軟な思考の持ち主で、有り難いことに新卒で既婚者の私を採用してくださいました。

話を元に戻しましょう。結婚当初夫は25歳。農家の次男として生まれ育った彼は、妻が働く事への理解はあり、身の回りの事は自分ですするという習慣もありました。

しかし当時は、男性が台所に立つなんて考えられない時代でしたので、家事は私の役目でした。ただ、結婚に憧れていた私は、家庭料理を作って夫と共に食事することを幸せと感じていましたから、家事を負担とは感じていませんでした。

問題は子育てです。夫は子ども好きとはいえませんが、我が子は大変可愛がって、子育てにも協力的でした。それを大きく邪魔したのは、お互いの職場であり社会の仕組みでした。

長男が発熱し保育園からの呼び出しで早退、翌日に熱が下がらない場合は保育園に預けられずに仕事を休むのは女性の私でした。当初は夫も職場ス

取って協力してくれていたのですが、昇進をきっかけに協力が得られなくなりました。

結局、病弱な2歳の息子が3回目の喘息入院をしたのをきっかけに、私は退職届けを出しました。この日を境に数年間、私達夫婦は社会の仕組みの中で、まるで自分が意思決定したかのように、夫は会社の管理職として、私は教育ママとして組み込まれていったように今は思います。

子育てが一段落した頃、私は5年後、10年後の自分を想像し、復職を考え始めました。当時、周囲の人たちが当たり前と思っていた環境を抜け出すには物凄いパワーが必要でした。

「家事はどうするのか?」「安い給与で時間ばかり浪費するのは?」「という意見もありましたが、私には「社会貢献の一助として活躍できる職場で、素敵に衛生士として活躍し続けたい」という思いがあり、復職を決断しました。

自分がどう生きたいか、何をしたいかを語り続け行動してきたことで、周囲の意見は変わりました。今では夫が一番の理解者であり、そして家族も協力してくれています。



株式会社スマイル・フォー・ユー
代表取締役/歯科衛生士
長岐 祐子

歯科衛生士歴30年。多くの歯科医院での勤務を経て、子育て後、フリーランスとして活動。2011年に人材育成・教育事業のスマイル・フォー・ユーを立ち上げる。

- ・日本歯周病学会認定歯科衛生士
- ・JSDIインプラント専門歯科衛生士
- ・日本歯科衛生士会認定歯科衛生士生活習慣病予防
- ・日本成人矯正歯科学会歯並びコーディネータ
- ・日本成人病予防協会認定 健康管理士一般指導員
- ・コーピングインスティテュートコーチ
- ・整理収納アドバイザー1級

(株)スマイル・フォー・ユー
03-6311-8720

歯科医院の人材育成・教育・復帰のご相談は、
お気軽にお問い合わせください。